

Hanzi Wenhuaquan

JINDAI YUYAN
WENHUAJIAOLIUYANJIU

汉字文化圈

近代语言文化

交流研究



李运博 主编

- [2010年汉字文化圈近代语言文化交流研究国际学术研讨会]（论文集）
- 宗旨：弘扬语言文化研究，加强国际学术交流
- 主题：西学东渐的东亚近代新语新概念

汉字文化圈

近代语言文化交流研究

主 编 李运博

南开大学出版社
天 津

图书在版编目(CIP)数据

汉字文化圈近代语言文化交流研究 / 李运博主编.

—天津: 南开大学出版社, 2010. 6

ISBN 978-7-310-03479-6

I. ①汉… II. ①李… III. ①汉语—近代—国际学术会议—文集 IV. ①H109.3-53

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2010)第 119541 号

版权所有 侵权必究

南开大学出版社出版发行

出版人: 肖占鹏

地址: 天津市南开区卫津路 94 号 邮政编码: 300071

营销部电话: (022)23508339 23500755

营销部传真: (022)23508542 邮购部电话: (022)23502200

*

河北省迁安万隆印刷有限责任公司印刷

全国各地新华书店经销

*

2010 年 6 月第 1 版 2010 年 6 月第 1 次印刷

880×1230 毫米 32 开本 12.125 印张 2 插页 336 千字

定价: 28.00 元

如遇图书印装质量问题, 请与本社营销部联系调换, 电话: (022)23507125

前 言

为弘扬语言文化研究，加强学术交流活动，同时也是作为国家社科基金项目《中日两国词汇交流史》（课题编号：08BYY076）阶段研究成果之一，天津外国语大学（当时为天津外国语学院，2010年5月更名为天津外国语大学）与汉字文化圈近代语研究会于2009年3月27-28日联合举办了“2010年汉字文化圈近代语言文化交流研究国际学术研讨会”。该研讨会是汉字文化圈近代语研究会举办的第八次国际学术会议，也是迄今为止在天津市乃至华北地区召开的最高水平、最大规模的日语词汇学研究国际研讨会，有力地推动了国际间和校际间的学术交流，对加深国内外日语词汇学研究领域的相互理解，促进国际、校际间在科学研究上的合作起到了积极的作用。

“2010年汉字文化圈近代语言文化交流研究国际学术研讨会”以西学东渐的东亚近代新语新概念为主题，共举办了2场主题演讲会和18场研究发表会（分科会）。会议期间，来自日本关西大学、目白大学、大正大学、早稻田大学、爱知大学、东洋大学、立教大学、筑波大学、神奈川大学、国际日本研究中心、广岛大学、韩国高丽大学以及北京大学、中央民族大学、北京外国语大学、武汉大学、南开大学、浙江工业大学、天津外国语大学等国内外知名高校的100余位学者和研究生参加了此次研讨会（详细日程见附表）。

《汉字文化圈近代语言文化研究》论文集共收录论文26篇，是对提交给该国际学术研讨会的部分研究成果遴选、整理、编辑而成的，其中有5篇论文曾在研讨会上做了大会发言。在一定程度上，这部论文集比较集中地展示了近几年我国在日语词汇学研究方面所取得的科研成果，想必一定会对我国在该领域的研究与探索起到一定的促进作用。

2 汉字文化圈近代语言文化交流研究

毋庸赘言，词汇学研究在我国开展的时间还比较短，甚至可以说还存在着一些空白。本论文集所收入的论文许多还尚处于初步探讨的阶段，在研究对象、研究方法、研究步骤等方面还存在着许多课题。特别是，有些作者才刚刚开始从事科研工作，尚存在着许多不足，有不当之处，还请各位专家、学者批评指正。

最后，谨向在国际研讨会的成功举办和论文集的如期出版过程中给予大力指导和支持的中国日语教学研究会会长、天津外国语大学校长修刚教授、天津外国语大学科研处处长佟立教授，南开大学出版社张彤老师，以及在百忙之中对论文进行遴选和审阅工作的领导和老师表示衷心的感谢！再次向百忙之中拨冗与会并不吝赐稿的各位专家、学者表示衷心的感谢！

主编 李运博
2010年5月1日

昼食：12:00～13:30

午後の部 (I) 13:30～15:30 (司会：朱京偉・沖森卓也)

6大塚秀明 (筑波大学) 民国初期の日中語彙交流——“非売品”をめぐって (13:30～14:00)

7陶芸 (中央民族大) 日中法律用語における四字漢語 (14:00～14:30)

8鮮明 (北京外大・院) 清末中国人的日語学習——日語語音篇 (14:30～15:00)

9高野繁男 (神奈川大) 『広辞苑』の字音語——5版・6版の IT用語を傅志瑜 (浙江工業大) 例に (15:00～15:30)

コーヒープレーク 15:30～15:50

午後の部 (II) 15:50～17:50 (司会：李漢燮・沈国威)

10千葉謙悟 (早稲田大学) 「奇跡」の語誌 -20世紀前半の日中語彙交流 (15:50～16:20)

11清地ゆき子 (筑波大・院) 新漢語「失恋」の成立と中国語での受容 (16:20～16:50)

12聂长顺 (武漢大学) 「美学」という語の創出と伝播 (16:50～17:20)

13新井菜穂子 (日文研) 「電気」の受容について (17:20～17:50)

閉会のあいさつ 17:50 (沈国威)

閉会 18:00

天津外国語学院

漢字文化圏近代語研究会

共催



Association for the Study of Modern Neologisms

漢字文化圏近代語研究会

In the Cultural Sphere of Chinese Characters

国際シンポジウム漢字文化圏近代言語文化交流研究

27日（金曜日）、天津外国語学院

開場：8:55

受付：9:00

会場：科研樓學術報告廳（1樓）

9:30～開会の辞天津外国語学院学長：修剛（司会：李運博）

基調講演（司会：李運博）

倉島節尚（大正大学名誉教授）：国語辞典の記述について（10:00～10:40）

内田慶市（関西大学教授）：言語接触とピジンイングリッシュ（10:40～11:20）

修剛（天津外国語学院教授）：學術用語の標準化について（11:20～12:00）

昼食：12:10～13:30

会場：逸夫樓薩翁廳（1樓）

研究総述（発表 35分、質疑応答 10分）

第I部 13:30～17:35（司会：内田慶市）

八耳俊文（青山女子短大） 科学用語と日中語彙交流（13:30～14:15）

朱京偉（北京外国語大） 日本借用語研究の資料について（14:15～15:00）

2 汉字文化圏近代語言文化交流研究

コーヒーブレイク 15:00～15:20

第 II部 15:20～17:35 (司会：孫建軍)

陳力衛 (目白大学) 漢字の訓と和製漢語について (15:20～16:05)

沈国威 (関西大学) 近代日中語彙交流史概説 (16:05～16:50)

李漢燮 (高麗大学) 韓国語と日本借用語 (16:50～17:35)

18:00懇親会 (司会：李運博)

28日 (土曜日)、天津外国語学院

開場：8:25

受付：8:30

会場：逸夫楼薩翁廳 (1楼)

研究発表 (発表 20分、質疑応答 10分)

午前の部 (I) 9:00～12:00 (司会：八耳俊文)

1塩山正純 (愛知大学) モリソンが会話テキストに書いた中国語
(9:00～9:30)

2宮田和子ストーントン卿とその周辺 (9:30～10:00)

3木村一 (東洋大学) 外国人宣教師による日本語研究資料の一斑
(10:00～10:30)

コーヒーブレイク 10:30～10:50

午前の部 (II) 9:00～12:00 (司会：陳力衛)

4朴 孝庚 (立教大学) 明治前期の文末表現について——西洋人の
著作を中心に
(10:50～11:20)

5李 運博 (天津外院) 中日近代語彙交渉における梁啓超の役割
(11:20～11:50)

目 录

中日近代語彙交渉における梁啓超の役割 /1	李运博
近代日中語彙交流史概説 /14	沈国威
漢字の訓と和製漢語について /36	陈力卫
『漢城旬報』(1883-84) から見た中日韓の語彙交流 /47	朱京伟
从《明六杂志》看明治初期的日语四字词 /68	邵艳红
中国語における日本語借用語の受容 /85	胡 琪
在高年级教学实践中培养学生的自主学习与科研创新能力/102	李运博
中日时间感觉的对比研究 /112	张 雪
对汉日二字同形词词性变化的考察 /125	王耀振
浅析日语中的外来语系准接辞 /138	晁春莲
中日同形词词性差异的探析 /152	王 博
体育用语中中日同形汉字词之比较 /175	席 娜
论费解外来语词汇的替换 /185	窦金兰
中国日语学习者词汇学习中的母语迁移探析 /194	张 爱
对多寡形容词连体修饰用法类型的考察 /206	朱鹏霄
关于日汉词句结构规律的对比考察 /218	李丹蕊
有关日语口语中的主题省略 /231	刘泽军
浅析日语间接依赖表现的使用利弊 /249	程志燕
近义副词「せっかく」和「わざわざ」/262	初相娟
试论日本关西方言的历史地位及发展趋势 /274	冯明舒
冈崎义惠的“谐趣论”与《枕草子》的审美理想 /285	皮俊珺
试论日本柔道的文化现象 /296	冯 芳

2 汉字文化圈近代语言文化交流研究

中国儒家思想“孝”观念在日本的早期传播 /309

日本自由打工族问题分析与探讨 /323

学生主导型日语阅读课的尝试 /337

关于翻译课教授的几个问题的探讨 /354

关于日语中的“缓冲语” /363

蔺 静

黄英莲

赵冬茜

盖利亚

贾 丽

中日近代語彙交渉における梁啓超の役割

天津外国語大学・李 運博

1. はじめに

今日の時点においては、中国語に多くの日本借用語が存在している、というのは周知の事実である。そして、いつ、どのようにして、このような状態になってきたか、またその数はどのくらいあるか、どのように中国語に定着したか、を見ることは重要な意義を持っている。

今までの研究により、日本借用語が大量に中国へ「逆流入」し始めた時期は日本への最初の留学生の派遣（1896）につづき、戊戌変法の失敗で日本へ亡命した梁啓超（1873-1929）が『清議報』^①を創刊（1898）して以後であることが指摘されている^②。

本研究では最も全面的に梁啓超の著作状況を反映されたものだと言われた『飲氷室合集』（文集 45 巻・専集 104 巻）、及び中国における最も権威のある『漢語大詞典』を考察資料として、日本借用語の中国への移入において、梁啓超が果たした役割を考察してみたい。

2. 先行研究

沈国威（1994）は「日本借用語の初期の状況について述べるとき、啓蒙者、翻訳者、学者である嚴復、梁啓超、王国維を抜きにしては語れない。」^③と指摘した。

荒川清秀（1999）は次のように指摘しながら、「日本漢語の中国への流入」における梁の役割の重要性を強調している^④。

日本語を中国語に入れるのに大きな役割を果たしたのは、西

2 漢字文化圏近代語言文化交流研究

太后のクーデターで日本に亡命した梁啓超らの、『清議報』や『新民叢報』による啓蒙宣伝活動である。彼らは翻訳をしたのではなかったが、日本の政治、社会を論じる過程で必然的に日本語をそのまま大量に使用することになった。

陳力衛(2001)は「また、章炳麟、梁啓超の文章や在日の留学生が発行した『清議報』などもこうした語彙の交流を伝える資料として調査すべきだと思う。」と指摘している^⑤。

この他に、彭文祖(1915)、王立達(1958)、高名凱・劉正埏(1958)、徐剛(1996)、何華珍(1997)、陳鵬鳴(1999)は日本借用語と梁啓超との関わりを指摘した。日本でも実藤惠秀(1960)、大原信一(1994)、荒川清秀(1999)がこの研究を手がけ、梁啓超に言及している。

いずれの先行研究により、近代における中日語彙交渉を研究する際、梁啓超の使用した語を考察対象語にして、その出典を中国へ新語を伝える重要なルートの一つとすることが窺える。但し、梁啓超が日本借用語とどのような関係を持っているか、梁啓超がどの語を、どのように近代中国に移入したかについては、梁啓超の著作を網羅的に調査したうえに、考察を加える必要がある。

3. 梁啓超の作品にある日本借用語の出現箇所

筆者は既にいくつかの論文に『飲氷室合集』にある日本借用語の出現箇所を示したが、念のため、もう一度纏めてみよう。

3.1 割注及びその関連部分にある語

3.1.1 「日本謂」「日本人謂」などの特徴的な表現を付けている語

梁啓超は下記のように割注及びその関連の部分に明確に「日本謂」「日本人謂」などの特徴的な表現をつけ、該当の語が日本借用語であると指摘している。

例 A 日本自維新三十年来。広求智識於寰宇。其所著有用之書。不下数千種。而尤詳於政治学。資生学。即理财学。日本謂之経済学。智

学。日本謂之哲学。群学。日本謂之社会学。等^⑥。

例 B 於是經濟上日本人謂凡關係於財富者為經濟之勢力範圍 遂附
變為政治上之勢力範圍^⑦。

このタイプの語は全部で 41 語であるが、表 1 にまとめておく。

表 1

哲学	國際	条理	單本位	利用派	經濟革命	本位貨幣	生存競争
雜誌	利潤	民法	兩本位	功利派	固定資本	補助貨幣	約束手形
賃銀	地代	社債	經濟学	快樂派	株式会社	優勝劣敗	社会問題
時間	革命	經濟	社会学	催眠術	公武合体	国立銀行	労働問題
手続	利子	金融	債務者	債權者	消費組合	空間	小作 国立

3.1.2 「日本謂」「日本人謂」などの特徴的な表現を付けていない語

梁啓超が特に割注をつけて解釈したのは、少なくとも当時の中国に於いて、これらの語がまだ一般的な語として定着していないか、或は普及していない新しい概念を表しているからだろう。これらの語は明治の日本で造られた可能性が高い。

例 A 復相競焉。進而為帝国。進而為大帝国。国家者 State 之義帝国者 Empire 之義也。其性質各不同^⑧。

例 B 而財產所有權。則不動產較諸動產。尤確實而易保守。不動產即田地家屋等動產即器具及股分票等也^⑨。

この類の語は全部で 57 語であるが、表 2 にまとめてみる。

4 汉字文化圏近代語言文化交流研究

表 2

博物	物理	化学	元首	人格	帝国	企業	法律学	社会主義
半島	内海	収縮	迷信	個人	絶対	教育	同化力	金融機関
原料	決算	予算	分子	思慮	国会	議院	倫理学	交通機関
刺激	美術	請願	代表	自我	私人	公人	大統領	財団法人
恐慌	機関	官庁	社会	相統	議長	動産	不動産	自然人
発見	発明	交通	先占	法団	自治	合意	準備金	民主国
国家	立法院		取引所					

3.2 英語原文付きの語

一部の語は英語原文もつけていると同時に、割注及びその関連部分にある。これらの語については、既に 3.1 にまとめていたのでここに省略することにする。

3.2.1 「東訳」「日本人訳」などの特徴的な表現を付けている語

3.2.1.1 附言にある語

例：(附言二) Logic 之原語。前明李之藻訳為名理。近侯官嚴氏訳為名学。此実用九流「名家」之旧名。惟於原語意。似有所未尽。今從東訳通行語。作論理学^⑩。

この類の語は上記の「論理学 “Logic”」1 語である。

3.2.1.2 本行にある語

例：「革」也者。含有英語之 Revolution 與 Reform 之二義。Reform 者。因其所固有而損益之以遷於善。如英国国会一千八百三十二年之 Revolution 是也。日本人訳之曰改革曰革新。Revolution 者。若転輪然。從根柢處掀翻之。而別造一新世界。如法国一千七百八十九年之 Revolution 是也。日本人訳之曰革命^⑪。

この類の語は全部で次の 4 語である。

常識 Common sense

内閣 Cabinet

革新 Reform

改革 Reform

梁啓超は自ら「日本人訳」「東訳」などの表現を使っており、これらの語が全て日本語であることが確実であると認識している。しかし、事実が梁啓超の認識通りであるか否かについてはさらに考察、検討の必要がある。

3.2.2 「日本人訳」「東訳」などの特徴的な表現をつけていないもの

3.2.2.1 注、附言、案にある語

例：(附言) 此拋論理學上**内包** Intension **外延** Extension 之例。以明全称名詞特称名詞之異用也^⑩。

(案) 墨子所謂辭。即論理學所謂命題 Proposition 也^⑪。

憲法異同論

(注) 憲法者。英語稱為 Constitution 其義蓋謂可為國家一切法律根本之大典也^⑫。

この類の語は全部で 20 語である。

論叢 Discourses

推論 Inference

判断 Judgment

立証 Verification

秩序 Order

憲法 Constitution

名辭 Term

前提 Premise

概念 Concept

命題 Proposition

断案 Conclusion

政治学 Politics

媒辭 Middle term

比較 Comparison

特称命題 Particular Proposition

主辭 Subject

賓辭 Predicate

仮言命題 Hypothetical Proposition

外延 Extension

内包 Intension

3.2.2.2 本行にある語

例：人不得有私財。一國所有。當為一國人之公產。其奴隸及外國人。則使為服役。貨財所出。分少許以給之。此實後世**共產主義** Communism 之權輿也^⑬。

6 漢字文化圏近代語言文化交流研究

この類の語はとても多い。そして、これらの語については、二つの可能性がある。一つは、近代中国においてまだ適当な「訳語」がないため梁啓超がそのまま日本借用語を使用した。もう一つは、梁啓超が新しい概念や思想を中国読者に分かりやすく説明するために当時使用されている語を「訳語」として取扱った。当時の中国の状況を考えてみれば、梁啓超が自ら英語原文をつけて解釈した語については、少なくとも彼自身がまだ近代中国社会に普及していないか、或いは定着していないと認識しているからだろう。即ち、近代中国社会に於いて、これらの語は新しい語であり、日本借用語に属する可能性が十分考えられる。なお、これらの語は、字面から、日本借用語であると断定できる特徴的な表現を付けていない。それ故、考察が曖昧になることを防ぐため、研究対象を決める際、より厳しい条件を付ける必要がある。

4. 『漢語大詞典』にある梁啓超用例語

4.1 同じ語釈項目に古典の出典が書かれている語

例：

人物

語釈：才能が優れて、人望があり、社会評価が高い人。

出典：①劭與靖俱有高名、好共覈論鄉党人物。

（後漢書、許劭伝）

②其人未出現以前與既出現以後、而社会之面目為之一變、若是者庶可謂之人物也已。

（梁啓超、南海康先生伝、第一章）

上記の例文に示したように、梁啓超の出典に使用された「人物」と古典の出典に使用された「人物」が同じ解釈項目に書かれている。即ち、梁啓超が使用した語の意味は古典の出典に使われた意味と同じである。従って、「人物」を古典中国語と認めるべきである。この

ような語は全部で 347 語である。

4.2 別の語釈項目に古典の出典が書かれている語

例 a :

一流

①意味：一類、同類。

出典：或問一流之才而或窮或達，其故何也。（晋、葛洪、抱朴子、窮達）

②意味：最も優秀なもの

出典：故一流之人能識一流之善、二流之人能識二流之美。
（三国、劉劭、人物志、接識）

③意味：一種の流派。

出典：農而可列於九流也、則如孫吳之兵、計然白圭之商、扁鵲之医、亦不可不為一流。（梁啓超、論中国學術思想變遷之大勢、第三章第二節）

④意味：王莽時代における銀幣の單位の一つ。

出典：

朱提銀重八兩為一流、直一千五百八十。
（漢書、食貨志下）

例 b :

利子

①意味：古代、犯人を賞罰する道具の一つ。

出典：各與了一碗長休飯、永別酒。吃罷、辞了神案、漏轉身来、慎上利子。（水滸伝、第四十回）

②意味：利息。

出典：

1. 企業家既結合自然、資本、勞働力之三生産要素、而冒險以求利潤、故地代、利子、庸錢三者、皆經企業家之手、以付三階級之人。（梁啓超、再駁某報